



譲り合いで交通量の多い交差点をスムーズに行き交うことができたり、多くの人が停電の中でも仕事をしていたり、日本人の優しさと強さを実感しました（女性・40代）

北海道新聞（平成30年9月6日夕刊・7日朝刊）

みんなの声

災害が少ないといわれる旭川でも電気などのライフラインが途絶え、記憶に残る災害となりました。市民の防災意識の低さが露呈した出来事でした（男性・20代）

北海道 胆振東部地震

平成30年9月

第1位

平成30年9月6日午前3時8分頃、北海道胆振地方中東部を震源に発生。地震の規模はM6.7、最大震度は、北海道では初観測の震度7。この地震により道内全域の約295万戸で停電し、震度4を観測した旭川でも、ほぼ全域で長時間の停電となりました。ガソリンスタンドやホームセンターには長蛇の列ができ、災害への日頃の備えの重要性を実感しました。



地震による停電時の市内2条通



総合防災センターに設置された非常災害時用携帯電話充電器



平成の30年間

市民に聞いた！

旭川の出来事 ランキング

「あさひかわ平成アンケート」結果発表

天皇陛下のご退位に伴い、今年4月30日で「平成」が終わり、皇太子殿下が新天皇に即位される5月1日から新元号が始まります。本誌では昨年12月号に「あさひかわ平成アンケート」を掲載し、過去30年間に市内で起きた出来事の中で、市民の皆さんが印象に残っているものについてお聞きしたところ、412人の方からご応募をいただきました。投票数の多かった出来事をランキング形式で紹介し、「平成の旭川」を振り返ります。



丸井今井旭川店の閉店

平成21年7月

西武旭川店の閉店

平成28年9月

第2位

丸井今井旭川店は明治30年、西武旭川店は昭和50年に開業。共に旭川駅前に立地し、多くの市民に親しまれてきましたが、大型量販店の出店などにより売上げが減少。長年の歴史に幕を下ろしました。丸井今井旭川店の建物は、平成23年にフィール旭川として再生。子供向け屋内遊戯場「もりもりパーク」には多くの家族連れが訪れ、子供たちの元気な声が響いています。



みんなの声

大正元年生まれの亡き母が、私の結婚の際の呉服一式を丸井さんでそろえてくれ、そのとき一緒にお寿司を食べたことは忘れられない思い出です（女性・60代）

西武の中華料理店で働いていました。当時の大みそかは、お客さんの列が途切れなくて、とても忙しかったことを思い出します（男性・60代）

西武A館の建物がなくなった景色は、今でも見慣れません。これからの旭川をより楽しく、明るくしてくれるような建物が建ったらいいなと思っています（女性・30代）

第6位

日本のまつり・旭川の開催

平成2年8月



みんなの声

小学生だった子供と一緒に、歓声を上げながら見ました。秋田の竿灯かんとうを操る技術がすごかったです。もう一度見たい！（女性・60代）

旭川村が誕生してから100年を記念するイベントとして、8月11日・12日に開催。旭川の開拓にゆかりの深い地域による、青森ねぶた、秋田竿灯かんとう、長崎龍踊りしちまんど、四日市大入道おおいにほうどうなど日本中のまつりが常磐公園などで繰り広げられた他、名産品等も販売されました。

第3位

旭山動物園の月間入園者日本一

平成16年7月・8月



みんなの声

中学・高校時代は遠足で、大人になってからはデートで、先日は2歳の子供を連れて行きました。また思い出を増やしていきたい！（女性・30代）

一時は入園者数が減少し、閉園の危機もありましたが、職員のアイデアを形にした「行動展示」が注目され、7月・8月の入園者数が東京都の上野動物園を抜き日本一に。その復活劇は、映画やテレビドラマにもなりました。現在も、国内外から訪れる多くの人に動物たちの素晴らしさを伝えています。

平成16年6月オープン「あざらし館」

第7位

天皇皇后両陛下ご来旭

平成15年7月



みんなの声

当時勤めていた施設に訪問して下さった。あのかの美智子さまの美しさは、目に焼き付いています（男性・30代）

平成12年の有珠山噴火後の復興状況の視察などを目的に、天皇皇后両陛下が来道され、7月4日・5日に旭川に立ち寄られました。視察先や沿道には、何時間も前から大勢の人が詰め掛け、両陛下をお迎えしました。

第8位

家庭ごみの有料化始まる

平成19年8月



みんなの声

ごみ集積所があふれていたのが印象的でした（女性・40代）
リサイクルやごみ減量の意識向上のきっかけになりました（男性・50代）

ごみの減量化やリサイクルの推進等を目指して、有料化がスタート。平成29年度の家庭ごみの総排出量は、有料化前と比べて、25.1%減少しました。さらなるごみ減量のため、正しい分別など一人一人の取り組みが求められています。

有料化を前に、集積所にあふれたごみ

第5位

大雪で市民生活に打撃

平成25年1月



みんなの声

お正月早々ご近所さんたちと声を掛け合い、何時間も雪かきをしたのは、今となっては楽しい思い出です（女性・50代）

2日夜から3日にかけて暴風を伴った大雪となり、最大瞬間風速は27.3mを記録。1月としては観測史上最大となりました。高速道や道道は通行止めになり、バス・JRも運休。仕事始めを前に、市民は除雪に追われました。

覚えていますか？
買物公園の変遷



平成2年



平成6年 1条通（西武旭川店前）



平成10年 3条通



平成11年 2条通



平成17年 6条通（スガイビル前）

こんな声が寄せられています

旭川競馬場の廃止



第25位
明かりに照らされた中、馬が走るのを見るのが好きで、何度も行きました。廃止になって本当にさみしかったです（女性・40代）

大型台風18号の被害



第18位
自宅の屋根のトタンが市役所まで飛ばされ、役所の方が届けてくれました。かなりのダメージでした。あれ以来、台風が恐ろしい（男性・30代）

旭川ライブジャムに1万人



第28位
スチールドラムなど普段聞けない音楽を聞くことができたので、とても楽しかった（女性・50代）

アサヒビルの解体



第20位
10代の頃、アサヒビルの地下で買ったバナナ焼きと番茶で空腹を満たしながら、友達と楽しく会話をしたのが懐かしい（男性・70代）

W杯スノーボード旭川大会



第32位
世界各選手の迫力ある滑りに感動しました。大会運営のボランティアスタッフとして支援したことも、大きな思い出です（男性・60代）

国内最北のドクターヘリ



第25位
カムイスキーリンクスで、スキーをしていた孫とスノーボーダーが接触。孫がドクターヘリで病院へ運ばれました（女性・70代）

旭川ジャンボ
プール営業終了

第9位

平成13年



みんなの声

毎日汗だくでバイトし、たくさんの出会いに成長させてもらいました（女性・50代）
小さい頃によく行きました。ウォーターライダー楽しかったなあ（男性・30代）

北の恵み 食べマルシェ
初開催

平成22年10月



この事業を記念して、僕が誕生したんだよ

第10位

みんなの声

毎年会場に行って、食べ歩きや買い物を楽しんでいます（男性・80代）
旭川のものだけでなく、なかなか行けない地域の食を堪能できます（女性・60代）

開村120年を迎えた平成22年、食をテーマにした記念事業として開催した第1回は、出店数204、来場者数約80万人。同26年の第5回には来場者数が100万人を突破しました。道北最大の食のイベントとして定着し、今年第10回を迎えます。

11位以下のランキング

※□の数字は平成の年数。

- 11 公立学校等の第2土曜日が休日に□4
- 12 あさひかわラーメン村がオープン□8
- 13 どか雪1日で59cm□10
- 14 天候不順で凶作□5
- 14 旭山動物園の遊園地営業終了□19
- 15 ポケットビスケットのライブ□10
- 16 スタルピン球場にナイター照明設置□24
- 17 人口34万人割れ□20
- 18 大型の台風18号の被害□16
- 19 上川管内でスズメ大量死□18
- 20 アサヒビル解体□20
- 21 旭川空港国際線ターミナル開業□20
- 22 観測史上最高気温36℃を記録□1
- 22 冬まつりの雪像がギネス認定□6
- 23 映画「旭山動物園物語」公開□21
- 24 音楽大行進が悪天候で中止□28
- 25 科学館「サイパル」開館□17
- 25 旭川競馬場廃止□20
- 25 国内最北のドクターヘリ運航□21
- 26 買物公園のアーケード撤去□1
- 26 ごみの5分別収集開始□8
- 27 大雪クリスタルホール開館□5
- 27 旭大星が新十両昇進□20
- 28 バーサースキー大会が中止□3
- 28 テレビ北海道が放送開始□3
- 28 中央図書館開館□6
- 28 旭川ライブジャム'95開催□7
- 29 三浦綾子記念文学館開館□10
- 30 道内初の中核市へ移行□12
- 30 あさひかわ北彩都ガーデンオープン□27
- 31 上野雅恵さんが北京五輪で2連覇□20
- 31 北彩都あさひかわ完成□26
- 31 ヴォレアス北海道誕生□28
- 32 ワールドカップスノーボード旭川大会開催□11
- 32 雪の美術館がアナ雪ブームで人気に□20
- 33 初の国際定期便就航□18
- 34 常磐公園の太木倒壊□24

皆さんの心に残った出来事は？

今回は、平成30年間の出来事を市民の皆さんの声を交えて振り返りました。

全国的に人口減少・少子高齢化が進行する中で、本市においても36万人を超えた人口が減少に転じるなど、このまちを取り巻く環境は大きく変化しました。

旭川の中心市街地は、旭川駅の新駅舎開業や、基本構想から20年以上の年月を経て完成した北彩都あさひかわの整備により、大きく生まれ変わりました。一方で、長年にわたり親しまれた百貨店の閉店など、時代の変化を象徴する出来事が市民の皆さんの記憶に強く刻まれました。

そうした中で、旭山動物園人気や旭川空港への国際線の就航、外国人観光客の増加など、まちに活気とにぎわいをもたらす明るい話題も多くありました。

みんなでつくる旭川の歴史

これから新しい時代を迎えます。このまちが北海道の拠点都市として、また、世界にきらめくまちとして輝き続けるために、共に力を合わせて、新たな歴史を刻んでいきましょう。

【詳細】広報広聴課

☎25・5370